立命館における資金運用の目的と状況について

- 資金運用の目的

  ・ 本学園では、教育研究の永続的な発展に寄与することを資金運用の目的としています。この目的のもと、学園の財政運営における重要な活動のひとつとして、保有する資金の特性（安全性、流動性）を前提に、学園の事業推進や学納金への依存抑制（収益性、資産価値保全）の観点から、資金運用を行っています。

  ・ 資金運用によって、教育・学生支援等のための財源の確保や長期的な視点での資産価値の保全（経済的リターンによる受益者への利益提供）を図るとともに、近年は、教育研究活動と資金運用活動を組み込んだ価値創出のプロセス構築（社会的インパクトによる受益者への利益提供）にも積極的に取り組んでいます。

- 学校法人の特性と資金運用による受益者

  ・ 本学園が保有し管理・運用する資金には、日常的な支払に充てるための資金、教育研究・学生支援等の事業を実施するための資金、数十年後の将来における施設の取替更新や教職員への退職金支払に備えた資金等があり、それぞれの目的等に応じて区分管理しています。

  ・ 本学園の資金運用による受益者は学生生徒児童や教職員ですが、この受益者には、現役世代だけではなく、将来世代も含んでいます。この考え方は、本学園の財政運営が、過去・現在・未来の長い時間軸を見通した永続性の観点を重視していることに基づいています（ちなみに、現在の現役世代も、過去から見れば将来世代にあたります）。

（資金運用による受益者への利益）

  ・ 現役世代の受益者に対しては、奨学基金や寄付基金等の運用によって得られた毎年度の収入を財源にして奨学金・人材育成制度、教育研究支援制度等を実施し、それらの制度を通じて利益が提供されます。

  ・ 一方で、例えば、将来の施設更新に備えた資金を実際に使用する（施設の更新事業を実施する）のは数十年先になります。しかし、施設更新に必要となる金額は、物価上昇等によって大きく変動します。つまり、現在あるいは過去の必要額（現在保有している施設の取得当時における事業費）をもとにして保有している資金が、そのままの金額では、将来的に価値が目減りし、数十年後に資金需要を迎えた際、同じ水準で施設整備を行うことができず、学習・研究環境の悪化を招いてしまうことになります。こうした事態に陥らないように、インフレ等への備えも念頭に置きながら資金運用を行い、将来にわたる資産価値の保全を図ることも、将来世代の受益者に利益をもたらすうえでの重要なポイントになります。

（学納金依存の低減）

  ・ 一般的にわが国の学校法人は、公費助成の国際的に見た水準の低さ、また国私間の格差から、学納金に依存せざるを得ない財務構造にあります。そのような条件の中で、収入多様化等によって学納金依

存の低減に努めることは、本学園の財政運営における使命であり、継続的な課題として取り組んでいます。資金運用は、収入多様化につながる活動であり、その成果として学費負担の軽減を図ることは世代を超えた学生等の利益となります。学費負担の世代間の公平性を保つ観点からも、本学園では、短期的・投機的な目線ではなく、中長期的なスパンで資金運用の安定化を図り、到達・結果を評価することを重視しています。

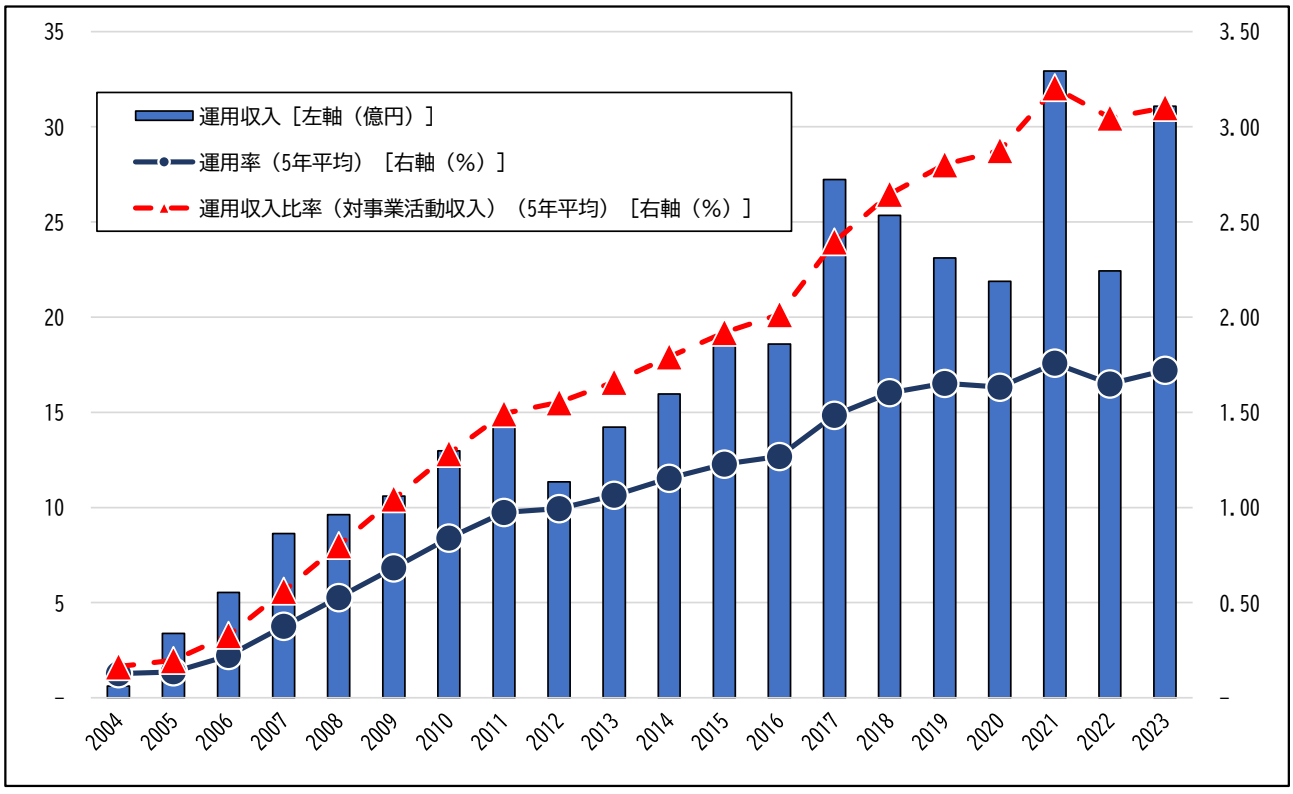
- 資金運用の状況

・ 本学園は、2005 年 3 月に制定した「学校法人立命館資金運用規程」に従って、2005 年度から資金運用を開始しました。

・ 現在、年間の運用収入は 20～30 億円程度で、学園の収入全体に占める割合は 3%程度の水準になっています（2004 年度当時の同割合は 0.1%）。

・ なお、リーマンショックや新型コロナショック等による金融危機・市場変動を経ていますが、これまでの結果として損失は生じていません。

＜資金運用の経年推移＞



- 資金運用の主な変遷

・ 本学園では、時々における国内外の社会情勢や金融・財政政策の動向等とともに、学園の事業計画や財政運営方針等を勘案しながら、理事会において、毎年度の年次計画を策定しています。その中で、中期的な基本ポートフォリオを設定し、段階的にリスク分散を進めながら、資金運用の安定化を図っています。なお、リターン（運用収入）目標は、基本ポートフォリオのもとで、許容できるリスク量の範囲で実現可能な水準で設定しています。

（2005 年度～）

- 2005 年 3 月、資金運用規程を制定。
- 従来、預貯金のみの管理から、ペイオフ全面解禁に対応した資金保全・効率化のため、債券による資金運用を開始。公共債を中心とする債券のラダー運用を基本としてポートフォリオを構築。

（2010 年度前後～）

- 大学、附属校における海外派遣プログラムの増加や海外事務所の設置等、学園事業のグローバル化に伴って、外貨建の債務（支払）が増加。為替リスクへの対応として、資産の通貨分散、外貨建債券の運用を開始。

（2015 年度前後～）

- リスク分散を図るため、債券以外の運用を組み込んだ中期基本ポートフォリオ（～2020 年度目途）を策定。
- 欧州債務危機等を背景に、債券運用に偏重したポートフォリオのリスクが増大。金融緩和政策によるインフレリスクへの対応のため、債券以外の運用を開始。ただし、預貯金および債券等以外の元本リスクへの留意が必要な運用対象は、運用収入の累計額の範囲とし、元本毀損のリスク量を制限（2024 年度計画においても継続）。

（2020 年度前後～）

- 新型コロナショック、インフレ懸念の昂進（顕在化）を背景に、市場連動性等を考慮した中期基本ポートフォリオ（～2025 年度目途）を策定。
- 学園事業を促進する資金運用として、2020 年度に「立命館ソーシャルインパクトファンド（RSIF）」を創設。事業を通じて社会課題解決を目指す社会起業家（学生、教職員、校友）への投融資を開始。
- 2021 年度、金融機関と共同で、環境・社会課題解決を目指す「インパクト志向金融宣言」に署名。
- 2023 年 3 月、株式会社かんぽ生命保険との間で、インパクト志向の投資を通じた資金循環の促進や金融教育の推進にむけた連携・協力の覚書を締結。2024 年 5 月、この覚書に基づくインパクト投資を実行。
- R2030 財政運営基本方針に基づいて、学園の中期計画「R2030 チャレンジ・デザイン」等を推進するための予算枠として、運用収入を財源とする「特別（推進）予算」を新設。

● R2030 財政運営における資金運用

（R2030 中期計画を推進する予算の設定）

- R2030 前半期の財政運営（2021～2025 年度）では、可能な限り学納金への依存を高めることなく、同時に、時勢に応じた柔軟な事業展開を可能にする予算運営を行うことを方針としています。この方針に基づいて、運用収入を財源とすることを明確にした次のような予算枠を設け、R2030 中期計画を推進しています。

  ➢ 「特別（推進）予算」

  事業計画を遂行する視点から、R2030 中期計画における重点施策を推進する予算。次世代研究大

学・次世代探究学園の実現にむけた研究者育成や探究学習促進、学生の学びと成長を促進・支援する Student Success 機能強化、DX を推進するデータ・プラットフォーム構築等の施策を実行。

- 「グラスルーツ実践支援事業」
  教職員の草の根的な挑戦を支援し、学園ビジョン R2030 を具現化する予算。2022 年度から実施し、学校、学部等の所属組織や、教員・職員等の属性を超えたグループにより、授業改善・高度化、地域・社会連携の促進、働きがいの向上、DE&I の促進等にむけた取組を実行。

（社会インパクトを創出するスキームの構築）

- 2011 年度の年次計画において、経済的なリターンを得るためだけではなく、資金運用活動を校友等との学園ネットワーク構築に活用することを検討課題として示しました。
- その後の調査・検討を経て、2019 年度に「立命館・社会起業家支援プラットフォーム（RIMIX）」を立ち上げました。RIMIX では、校友の他、学生・教職員がコア人材として参画する企業への投融資を行う独自のファンドを組み込み、資金（カネ）の循環とともに、学園内外の人的（ヒト）交流・連携を促進することで、社会課題解決に貢献する人材・マインドを養成することを目指しています。
- 2020 年度には RIMIX におけるファンド機能として、社会起業家（学生・教職員・校友）への投融資を行う「立命館ソーシャルインパクトファンド（RSIF）」を創設し、2021 年度には、他の金融機関と共同して、環境・社会課題解決を目指す「インパクト志向金融宣言」への署名を行いました。
- RSIF では、社会課題解決を目指す 16 社（2024 年 9 月現在）への投融資を実行しています。このファンドを通じて、起業の促進とともに、投資先企業等との共同研究や授業、キャンパスでの実証実験を展開しており、学園の教育研究活動と資金運用活動の相乗によって、投資先企業等の価値向上、社会インパクトの協創といった側面でも効果が現れ始めています。
- 本学園は、学園ビジョン R2030 のもと、「社会共生価値の創出」「創発人材の育成」に取り組んでいます。その一環として、株式会社かんぽ生命保険との間で、インパクト志向の投資を通じた資金循環の促進や金融教育の推進にむけた連携・協力を行うための覚書を締結し、2024 年 5 月には、この覚書に基づいて、共同してインパクト投資を行いました。今後、このファンドを通した投資実践と、本学園のアカデミアの研究活動・成果、人材養成とを結合させながら、社会的インパクトの創出、測定・マネジメントのいっそうの推進・発展を目指していきます。

● 参考

- 「学園ビジョン R2030」 https://www.ritsumei.ac.jp/features/r2030/vision/
- 「立命館大学大学紹介｜公費助成について」 https://www.ritsumei.ac.jp/profile/info/kohijosei/
- 「立命館の財政運営の考え方」 https://www.ritsumei.ac.jp/financialreport/
- 「RIMIX｜立命館起業・事業化推進室」 https://r-rimix.com/
- 「RSIF｜立命館ソーシャルインパクトファンド」 https://r-rimix.com/fund/